

様式第2号(第7条関係)

会議の開催結果

1 会議の名称	さいたま市総合振興計画審議会第3部会(第5回)
2 会議の開催日時	平成25年7月17日(水) 10時00分から12時05分まで
3 会議の開催場所	ときわ会館5階 501会議室
4 出席者名	審議会委員: 矢ヶ崎紀子部会長、中村仁副部会長、新井淑子委員、伊藤巖委員、木村通恵委員、佐藤美和委員、田中洋司委員、長野基委員、早坂源司委員 事務局: 江口明男、松井雅之、小島豪彦、松尾真介、富田昌洋、南友和、池田宜弘、鈴木慶一
5 議題及び公開又は非公開の別	議題 ・分野別計画(原案)について ・(仮称)重点戦略について ・都市づくりの進め方(素案)について ・区の将来像(素案)について ・その他 公開又は非公開の別 公開
6 非公開の理由	—
7 傍聴者の数	0人
8 審議した内容	別紙、議事概要のとおり
9 問合せ先	政策局政策企画部企画調整課 電話番号 048-829-1035
10 その他	

さいたま市総合振興計画審議会 第3部会（第5回） 議事概要

これまでの検討結果を踏まえ修正した分野別計画（原案）について確認するとともに、（仮称）重点戦略、都市づくりの進め方（素案）、区の将来像（素案）について審議しました。

議題（1）分野別計画（原案）について

事務局から、資料1-1及び1-2に基づき、分野別計画原案の修正箇所の説明とともに、資料1-3、1-4、1-5に基づき、成果目標及び（仮称）皆さんも取り組んでみませんか？の取扱について、調整部会での検討結果の報告がありました。

【主な意見】

- ・安全・生活基盤の分野の「みなさんも一緒に取り組んでみませんか？」の施策1の文章について、同じ主語となる文章は、まとめて並べた方が良い。
- ・安全・生活基盤の分野の「みなさんも一緒に取り組んでみませんか？」について、施策2に新たに加わった消費者トラブルに関する文章が具体性に欠けるので、施策展開の言葉に対応する形で、市民は「行政から発信された消費者トラブルの最新情報や知識をしっかりと把握する」などとしてはいかがか。
- ・成果目標について、研究を重ねて、ゆくゆくはさいたま市らしいものを作ると良い。

議題（2）（仮称）重点戦略について

事務局から、資料2に基づき、（仮称）重点戦略についての説明があり、審議しました。

【主な意見】

○戦略1について

- ・サブタイトルについて、案1は教育による人材育成、案2は子育てしやすい環境づくりと目標とするポイントが異なる。どちらかに絞らねばならないとすれば、案2の方が重点になると思う。
- ・重点ポイントについて、就労をせずに子育てをしている方の視点も入れてほしい。また、困った時に地域の人に支えてもらえるという視点は大事ではないか。
- ・キャッチコピーについて、案1には、みんなで子育てしていくことと、子ども自身が育つという両方の意味合いを込めて、サブタイトルを「～みんなで育てる・育ち合うまち～」としてはいかがか。

○戦略2について

- ・今後さいたま市は高齢化が急速に進むが、高齢者が単に健康に暮らすだけではなく、アクティブに暮らすことによって、地域における共生・共助の力を育てていくことができることを強調できると良い。
- ・団塊世代の起業の受け皿について、記載があると良い。
- ・高齢者の地域社会に何か還元したいという気持ちと、生きがい対策の連携を盛り込んでほしい。

○戦略3について

- ・青少年の就労について、雇用促進やキャリア教育の充実などにしっかり位置づけて、青少年たちも住みやすいさいたま市であると戦略の中に盛り込んでほしい。

○戦略4について

- ・キャッチコピーの「エコシティ」は環境省が用いている表現であると思う。同じ内容と捉えられてよいのか確認が必要だ。
- ・重点ポイントにある「市民や企業との連携による自然環境の保全・活用、魅力の創出」は、都市農業に民間企業を活用し、企業のビジネスチャンスと環境保全を組み合わせるものと解釈できる大きな転換だ。

○戦略5について

- ・キャッチコピーについて、防災に限定せずに、「安全安心コミュニティシティ さいたま」とすると、広く意味が取れるのではないか。
- ・災害だけではなく防犯等の話もあるので、サブタイトルは「～地域みんなで支え合うまち～」としてはいかがか。
- ・全体を通して、外国人への優しさ、多文化共生やグローバル化などについて読み取れないので、戦略5の重点ポイントにある「地域における多様な交流の促進」に含めてもらいたい。

○戦略全体について

- ・キャッチコピーについて、例えば、防災に取り組むこと自体を掲げるのか、あるいは防災に取り組んだ結果どのようなまちになるかを掲げるのか、レベル感を統一すると見やすくなる。
- ・重点戦略に取り組むとどういう良いことがあるのかがわかるように、成果目標的なものの設定にチャレンジしてはいかがか。
- ・重点戦略とは市が安定的に成長するかを示すものなので、戦略4のように、資源の投入の方向等をしっかり示していくことが各戦略にも必要なのではないか。
- ・重点戦略を立てるうえでは、市民が納得するように、裏付けとなるものを示していく必要がある。
- ・戦略とすると、一連の戦略をすべて書く必要があり、非常にハードルが高くなるので、タイトルを戦略の目標などとして、現在の資料のように、戦略の目的や目標を掲げるのが現実的ではないか。
- ・本市の特徴については、データを明らかにして、その原因について考え、現実を踏まえた上で戦略を立てることが大切である。

議題（3）都市づくりの進め方（素案）について

事務局から、資料3に基づき、都市づくりの進め方（素案）について説明があり、審議しました。

【主な意見】

- ・行政の持つ資源の使い方を見直す必要があり、特に多くの人的・財政的資源を持つ外郭団体の組織や役割の見直しについては、今回の計画に記載するくらいの強い認識がなければ、転換への推進が難しい。
- ・第2章の第1節の施策展開（2）について、「生産性の高い」行財政運営という表現に疑問を感じる。
- ・生産性を高めるには、「あれかこれか」という選択と集中が前提となるが、その際には、なぜ選択したのか、あるいは選択しなかったのかについて、今まで以上に説明していかなければならず、その手順やプロセスを明らかにしていく必要がある。
- ・「あれかこれか」を選択に際して、選択しなかったことの説明も行っていく旨を第2章の第1節の施策展開（1）に記載してはいかがか。
- ・第2章の第2節にある「市民に身近で、はやい区行政の実現」を目指すならば、各区役所にコンビニを設置し、多くの銀行に対応したATMを利用できるようにするといった取組も考えられないか。
- ・第2章の第2節のタイトル「市民に身近で、はやい区行政の実現」について、「はやい」をあえて平仮名にしていることの説明が必要ではないか。また、「実現」とあるが、今でも全くなされていないというわけではないので、より良くするという意味合いの表現にした方が良い。
- ・職員も市民も若い世代に早くバトンタッチできる状態にしなければ、まちを変えていくことができないだろう。
- ・第2章の第3節の施策展開（1）について、「国や広域自治体の関与を極力排し」という表現は計画に書くには強い表現なので、「不必要な関与を極力排し」などの表現に見直してはいかがか。

議題（4）区の将来像（素案）について

事務局から、資料4-1及び4-2に基づき、「各区の将来像」の策定過程等の説明とともに、調整部会での検討結果についても説明があり、審議方法等について検討しました。

【主な意見】

- ・分野別計画との整合性について確認し、そのことについての説明文を各区の将来像の扉に入れると良い。

その他

事務局から、総会の第2回開催日程について連絡がありました。

○8月5日（月）午後2時から 浦和コミュニティセンター第15集会室